

よそ者の声 南三陸の力に

若手の起業家や企業人が、東日本大震災で被災した南三陸町の活性化や観光集客の方策を考えるイベントが、同町の南三陸ホテル観洋であった。

ウェブメディア「milieu（ミリュウ）」編集長の塩谷舞さん(30)とホテル観洋が合宿「#Buzz Camp（バスキャンプ）」

「ドローン宅配」
「アニメで誘客」

を企画。全国各地から約50人が集まった。参加者は津波被害を受けた沿岸部をバスで見て回った後、「南三陸のために自分ができること」「南三陸への誘客」をテーマに話し合った。

「面白い物に出るのが難しい高齢者のため小型無人機「ドローン」を使った宅配や、町を題材にしたアニメを制作してファンを呼び込むなどの多彩なアイデアが出た。

ホテル観洋おかみの阿部憲子さん(57)は「地域の可能性を引き出すため、よそ者の視点は必要」と話した。塩谷さんは「みんなまで考えたアイデアを一つでも実現できればいい」と語った。

町の活性化策を話し合う参加者



バスキャンプは2017年に始まり3回目。3、4の両日行われ、参加者は活動の様子をツイッターで情報発信した。

2019年8月15日

【河北新報】